Ⅴ　産業や観光振興の基盤となる社会資本の整備

1　産業振興や交流を支える道路整備

①　産業振興を支える道路整備

物流の効率化など生産性向上による産業振興を支援するため、内陸部と物流拠点である港湾を結ぶ路線や、工業団地、インターチェンジへのアクセス道路など、物流の基盤となる道路の整備に取り組みます。

【令和６年度実施内容】 安全・安心

主な事業箇所

- 一般国道107号　白石峠（大船渡市～住田町）
- 主要地方道盛岡環状線　滝向（滝沢市）
- 主要地方道二戸五日市線　柿ノ木平（二戸市）

▲いわて花巻空港
（花巻市）

県南地域と重要港湾を結ぶ道路の整備の状況（平成27年度以降供用工区）

▲岩手中部工業団地
（金ケ崎町）

▲釜石港（釜石市）
ガントリークレーン

あい路区間の解消等により、内陸の工業団地と重要港湾釜石港や大船渡港間の物流ネットワークの強化及び緊急輸送道路の機能強化が図られます。

② 交流を支える道路整備

- 岩手県内各地の交流・連携や観光客の利便性向上を図るため、地域間を結ぶ道路や主要な観光地を結ぶ道路の整備を推進します。
- 既存の高速道路を有効活用し、観光地へのアクセス改善や物流の効率化等により地域経済の活性化を図るため、スマートインターチェンジの整備を推進します。

【令和６年度実施内容】 安全・安心

主な事業箇所

- 一般国道281号　案内～戸呂町口（久慈市）
- 一般国道282号　佐比内（八幡平市）
- 一般国道396号　内楽木峠（遠野市）
- 主要地方道釜石遠野線　笛吹峠（遠野市、釜石市）
- 主要地方道釜石遠野線　中村～青ノ木（釜石市）

一般国道282号　佐比内（八幡平市）

道路整備による沿岸と内陸の交流・連携の促進（国道281号）

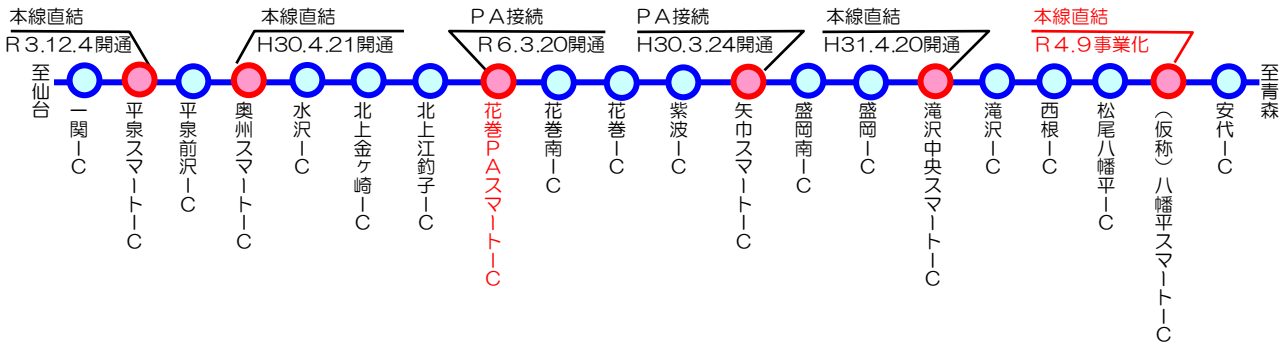
スマートインターチェンジ（ＩＣ）の整備

スマートＩＣは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるＥＴＣ搭載車両限定のインターチェンジです。

矢巾スマートＩＣが平成30年３月に県内初として開通したのを皮切りに、平成30年４月には奥州スマートＩＣ、平成31年４月には滝沢中央スマートＩＣ、令和３年12月には平泉スマートＩＣ、そして、令和６年３月には花巻ＰＡスマートＩＣが開通しました。

花巻PAスマートインターチェンジ

現在、令和４年度に新規事業化された（仮称）八幡平スマートＩＣの整備が進められています。



道の駅の整備

道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、活力ある地域づくりを共に行うための「地域連携機能」の３つの機能を併せ持つ休憩施設であり、県内では現在36の道の駅が登録されています。

令和５年４月19日には、国と久慈市が整備を進めてきた道の駅「いわて北三陸」が新たな道の駅としてオープンし、県内の道の駅登録数は計36箇所となりました。

現在、一関市の一般国道343号渋民バイパス沿線において、岩手県と一関市の一体型による道の駅の整備を推進しています。

道の駅「やまだ」
令和５年7月23日リニューアルオープン

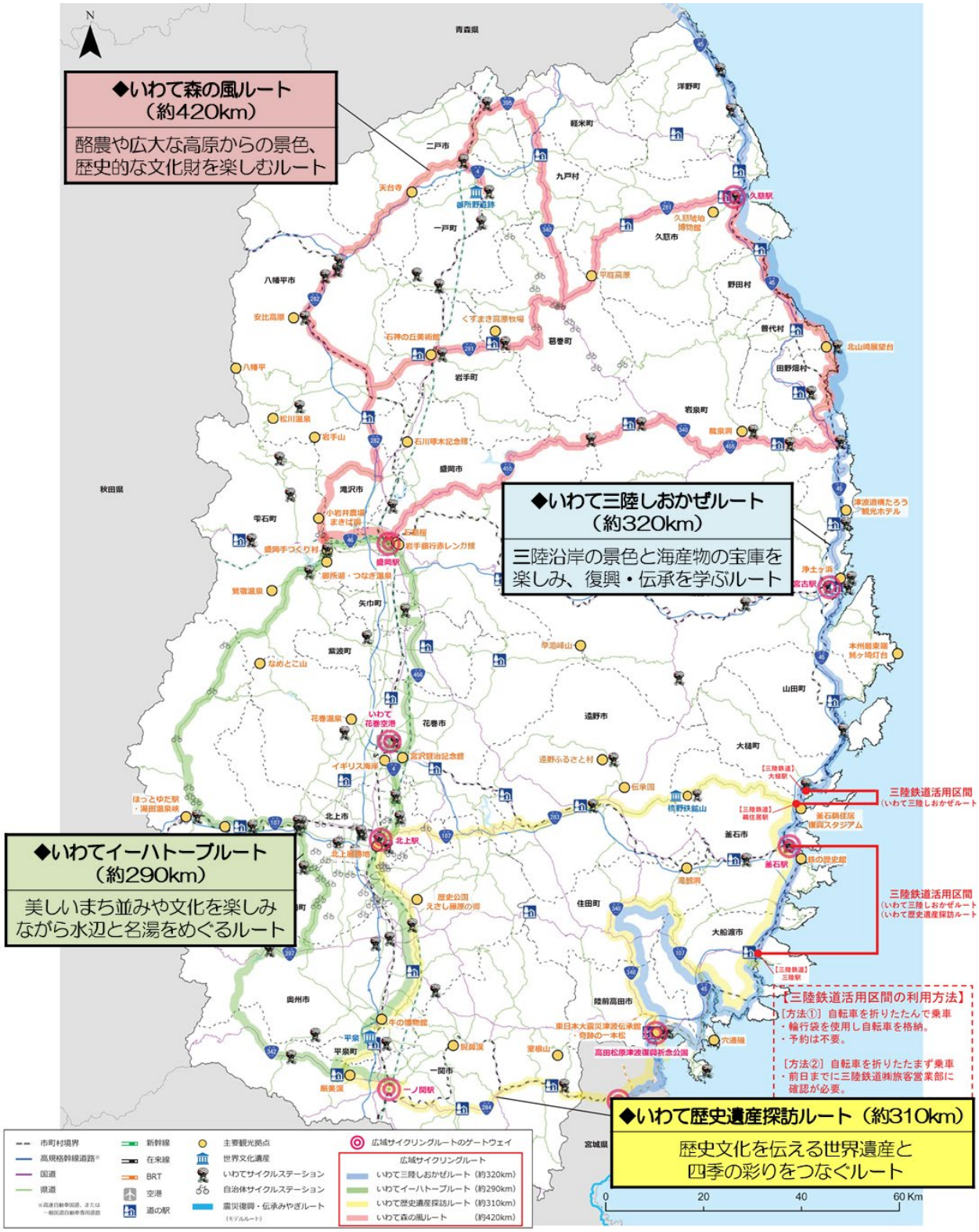
（仮称）道の駅「だいとう」完成イメージ図

サイクルツーリズム等の自転車を活用した観光振興

○　岩手県広域サイクリングルート

岩手県自転車活用推進計画に基づき、自転車を活用した観光振興等を促進するため、本県の地域特性を生かした広域的なサイクリングルートを令和７年度までに４ルートを整備することとしています。

令和６年３月には、ルート及びルート名称が決定しました。４つの基幹ルートの総延長は約1,340kmで、東北各県の基幹ルートでは岩手県が最長です。



○ サイクリング環境の向上（いわてサイクルステーション）

岩手県内に所在する施設で、次の要件を全て満たし、営業時間内に要件の設備を無償で利用できる施設を「いわてサイクルステーション」として登録しています。

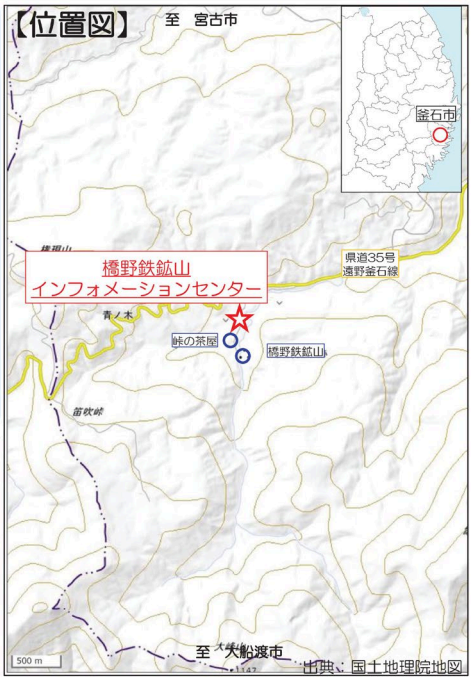
１　トイレが備わっていること
２　ベンチ等の休憩所が備わっていること
３　サイクルラック（スポーツサイクルが同時に３台以上駐輪、耐久性あり）が備わっていること
４　自転車修理用工具を備え、自転車利用者への貸出が可能
５　空気入れポンプ（英式、米式及び仏式バルブに対応、空気圧を確認できる目盛り付き）を備え、自転車利用者への貸出が可能

令和５年度末までに、県内**76施設**を「いわてサイクルステーション」に登録しています。
岩手県のホームページで各施設を紹介していますので、御覧ください。

https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/douro/bicycle/1056174.html

【施設の概要】

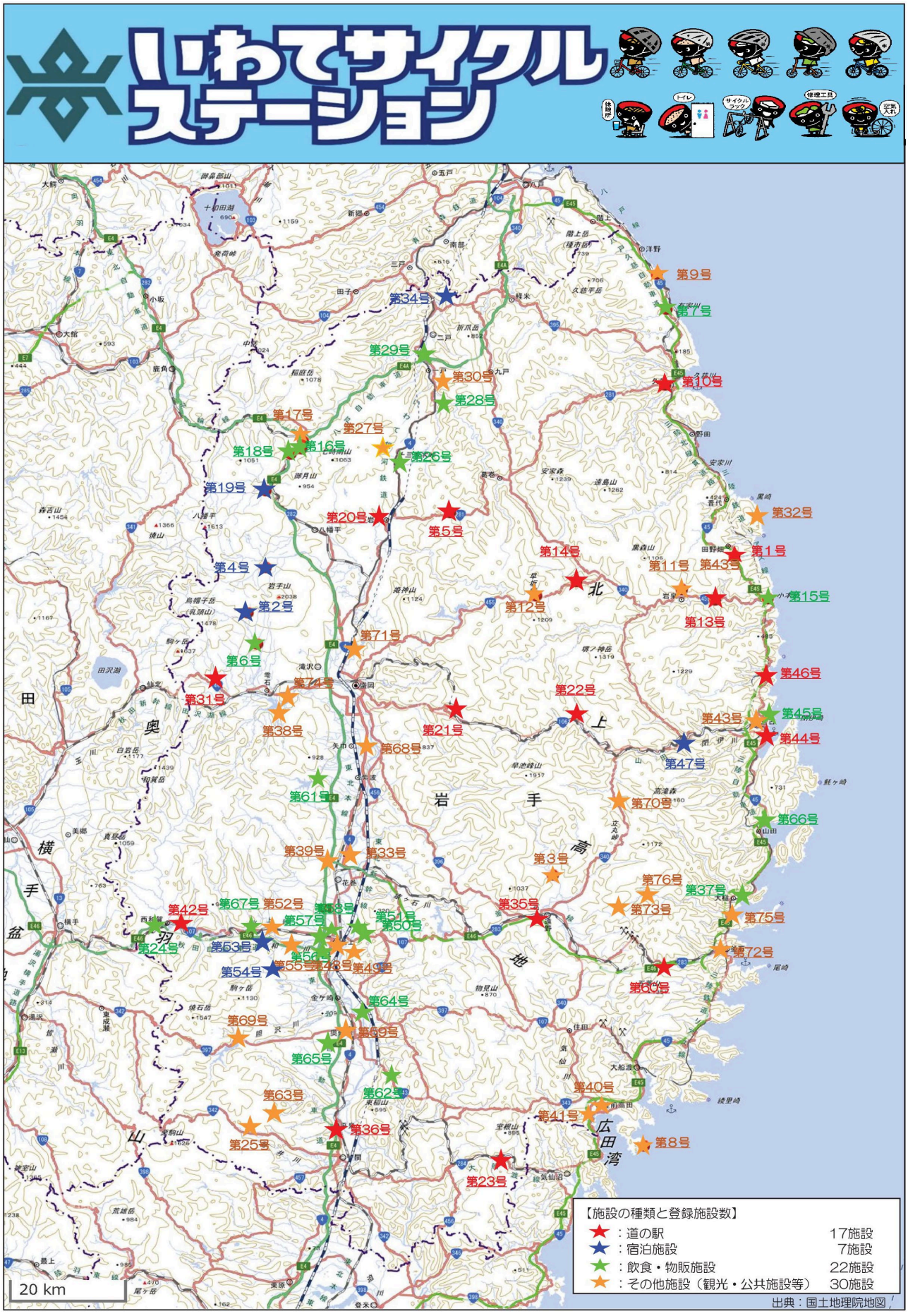
登録番号	第73号
登録日	令和６年１月26日
施設名	橋野鉄鉱山インフォメーションセンター
住所	釜石市橋野町２－６
営業時間	９：30～16：30
定休日	冬期休館（12月9日から3月31日）
お問合せ	（電話）0193-54-5250 （Mail）wada1201@amber.plala.or.jp
周辺情報	橋野鉄鉱山、峠の茶屋
施設から一言	世界遺産「橋野鉄鉱山」の見学前に、ぜひお立ち寄りください！



【施設全景】

【サイクルラック】

いわてサイクルステーションマップ（令和５年度末時点）



２　港湾の整備と利活用の促進

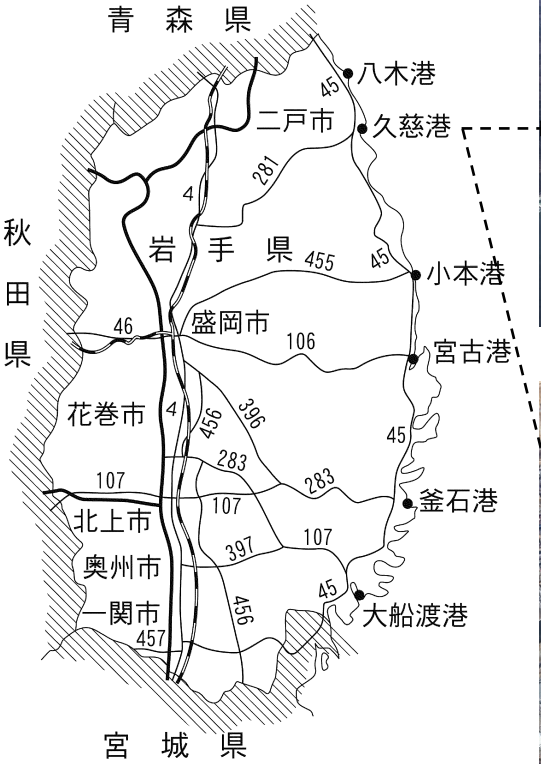
- 港湾を活用した産業振興を促進するため、港湾機能の充実を進めるとともに、関係各市町と連携し、温室効果ガス排出削減などの社会的要請を踏まえた荷主企業等へのポートセールスを展開します。
- 観光振興や地域振興に資する外国船社クルーズ船の寄港拡大を図るため、関係市町と連携したクルーズ船社へのポートセールスを展開するとともに、外国船社クルーズ船寄港時の円滑な受入に向けた関係者との情報共有・調整に取り組みます。

重要港湾の主要事業箇所

【令和６年度実施内容】

○　港湾施設の整備

- 【国】久慈港湾口防波堤　など
- 【岩手県】久慈港諏訪下地区（－6.0m岸壁　老朽化対策）など



久慈港

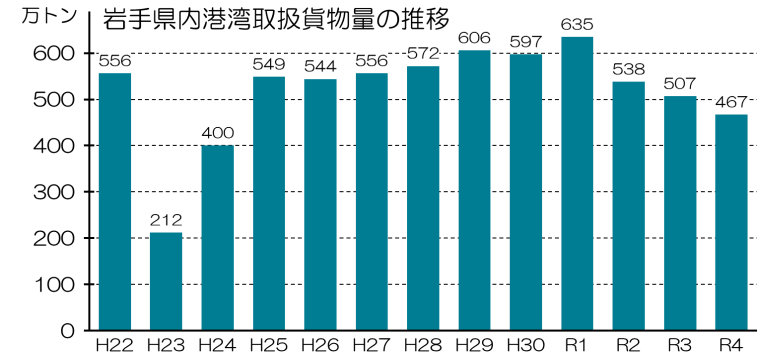
久慈港諏訪下地区

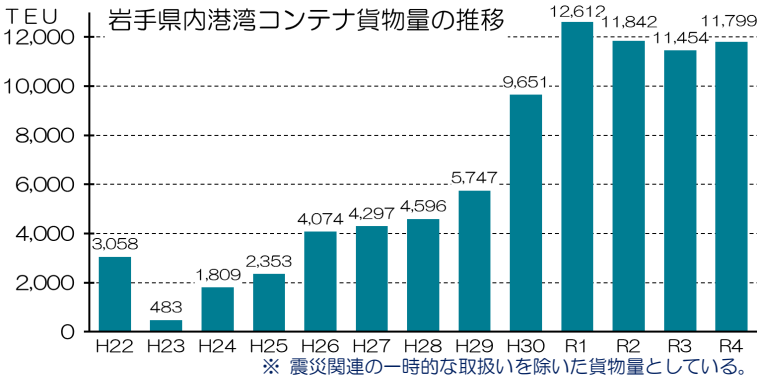
【写真提供：釜石港湾事務所】

港湾の利活用の促進

- 政策推進プランに掲げる港湾取扱貨物量及びコンテナ貨物取扱数の目標達成を目指し、荷主企業等へのポートセールスを推進します。

ポートセールスの状況
（いわてフォーラム2024in東京）





※ 震災関連の一時的な取扱いを除いた貨物量としている。
H25：宮古港ガレキ運搬3,288TEU　H27：釜石港廃土砂運搬1,990TEU

外国船社クルーズ船の寄港誘致

- 外国船社クルーズ船の本県港湾への寄港拡大に向け、自治体や民間事業者等による官民一体となった地域資源の魅力向上を図るとともに、外国船社の日本支社及び旅行会社等への訪問によるポートセールスを展開していきます。

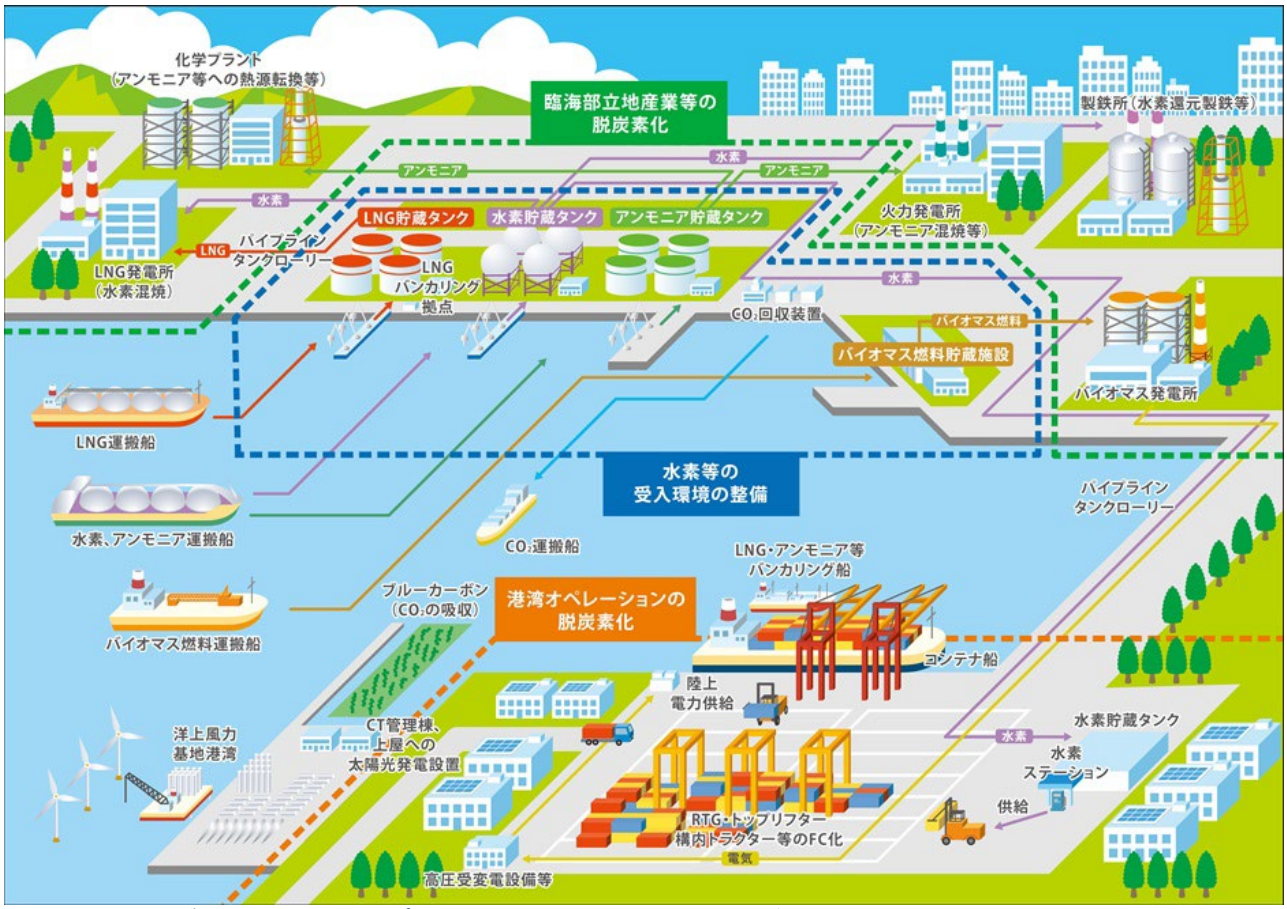
令和５年８月４日に宮古港に寄港した「ＭＳＣベリッシマ」

港湾脱炭素化推進計画に関する取組

GX

- 国では、我が国の産業や港湾の競争力強化や脱炭素社会の実現に貢献するため、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素等の受入環境の整備等を図る「カーボンニュートラルポート」の整備を推進しています。
- 令和４年12月に港湾における脱炭素化の推進等を図る改正港湾法が施行され、今後、多岐にわたる関係者が参加する港湾脱炭素化推進協議会での検討を踏まえ、港湾管理者が「港湾脱炭素化推進計画」を作成し、同計画に基づいて各関係者がそれぞれの取組を進めることとなります。
- 岩手県では、県内４つの重要港湾について「脱炭素化推進計画」を作成することとしており、各港で脱炭素化推進協議会を設置し、計画作成を進めているところです。

久慈港脱炭素化推進協議会の開催状況



カーボンニュートラルポート（ＣＮＰ）形成のイメージ（出典：国土交通省ホームページ）

３　いわて花巻空港の機能拡充と利活用の促進

- 国際線の定着と運航拡大に向け、利便性向上や施設整備等に取り組むとともに、交流やにぎわいの拠点としての空港の利活用を推進します。
- 航空機の安全運航のため、滑走路端安全区域（RESA）等の整備に取り組みます。

いわて花巻空港の利活用

令和５年度のいわて花巻空港の年間利用者数は476,768人（前年度比96,062人増）となり、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度と比較し、ほぼ同水準まで回復しました。

また、新型コロナウイルスの影響により運休していた国際定期便の運航が３年２か月ぶりに再開され、令和５年５月10日から台北線が定期運航されています。

令和５年５月10日　タイガーエア台湾到着

いわて花巻空港利用者の推移（単位：人、％）

年度	年間利用者数	定期便・臨時便	国内（利用率※1）	国際（利用率※1）	チャーター便	国内	国際
H30	481,859	466,781	445,684（66.7）	21,097（68.5）	15,078	3,123	11,955
H31/R１	485,002	479,590	438,405（66.1）	41,185（66.7）	5,412	3,307	2,105
R２	141,488	140,664	140,664（41.9）	0（　0.0）	824	824	0
R３	205,854	205,015	205,015（39.7）	0（　0.0）	839	839	0
R４	380,706	379,511	※2 379,511（53.1）	0（　0.0）	1,195	1,195	0
R５	476,768	475,135	※2 444,160（64.9）	30,975（91.5）	1,633	1,431	202

※１　利用率：定期便の数値　　※２　目的地外着陸を含む。

空港脱炭素化推進計画に関する取組　GX

航空分野では、脱炭素化社会の実現に向けた対策等を一層推進するため、令和４年12月に航空法等を一部改正する法律が施行され、国において航空脱炭素化推進基本方針が策定されました。

花巻空港では、令和４年12月に関係者からなる花巻空港脱炭素化推進協議会を設立しており、今後、花巻空港脱炭素化推進計画を策定し、空港の脱炭素化を推進します。

花巻空港脱炭素化推進協議会の開催状況

空港の脱炭素化推進のイメージ（出典：国土交通省ホームページ）

航空機の安全運航のための施設整備等の推進

【令和６年度実施内容】

○ 空港整備事業

- オーバーラン等を起こした航空機の損傷を軽減させる「滑走路端安全区域（RESA）※1」の整備を推進

※１　滑走路端安全区域（RESA）：航空機が離着陸する際に滑走路を超えて走行し停止するオーバーランまたは航空機が着陸時に滑走路手前に着地してしまうアンダーシュートを起こした場合に航空機の損傷を軽減させるため、滑走路の両端に設けられる区域

- 航空灯火※2に係る電源施設の老朽化に対応するため、監視制御装置の更新工事を実施

更新前

更新後（イメージ）

※２　航空灯火とは、電波、灯光、色彩又は形象により、航空機の航行を援助する航空保安施設の一つで、航空灯台・飛行場灯火及び航空障害灯の総称